

銚岳北面～アイスクライミング～

【報 告 者】ダニー

【日 時】2017年1月22日 【天 候】曇り時々晴れ

【参 加 者】T上(会員外)、Y口(会員外)、O原、
N本、S上、F谷、ダニー

《コースタイム》

9:00 入山-9:40 F1-10:10 F2-12:50 F3-14:10 F4-14:30 氷瀑フェニックス-
17:30 鬼の目林道

《 報 告 》

山岳ガイドのT上氏によるACA(Alpine Climbing Academy)の講習として、宮崎県銚岳北面にある鹿川の支流でアイスクライミングを実施した。内容は、氷上での歩行と初級アイスクライミング技術の習得である。当日は、氷の薄い部分はあるものの、低い気温によって十分に凍結しており、アイスクライミングには好条件であった。この日の高千穂観測所の気温は、平均1.6、最高4.5、最低-0.9℃が記録されている。

まず、傾斜の緩いF1で歩行の練習をした。緩い傾斜では、アイゼンの全ての爪が刺さるように、氷面と靴底が平行になるように足を置き、傾斜が強い場合は、つま先の2本ないし4本の爪を氷に蹴り込むようにして前進する。下りでアイゼンの全ての爪を効かせることには慣れが必要で、膝を曲げ、下半身を柔軟に使うことによって、傾斜した氷面をうまくとらえることができる。

F2ではリード及びトップロープで氷瀑をダブルアックスによって登る練習を行った。バイルを氷に打ち込む際は、手首のスナップを効かせて、バイルを投げるようにすると少ない力で打ち込むことができる。また、バイルの先端は刃物の様に鋭利に研いでおかなければならない。足使いは、一気に足を上げるのではなくて、小刻みに上げていくことが大事であると教えられた。左右のバイルを打ち込んだ後に4歩進むのがおおよその目安である。バイルを打ち込む時は、左右の足が同じ高さにあり、膝を伸ばして腰を氷壁にくっつけるようにして、腰を入れることが肝要である。そうすれば下半身が楽になり、バイルを楽に打ち込むことができる。

F1、F2より上部では実践形式での登りとなった。編成としては、T上-Y口-S上、F谷-ダニー、N本-O原の3組とした。今回の核心は何と言っても、鬼の目林道に上がり込む直前の氷瀑フェニックスである。90mと長く、一度に登りきることができないため、途中で一度ピッチを切る必要がある。自分の組は、F谷さんリードで登り始めた。

深谷さんはこれまでに何度もアイスクライミングを経験しており、安定した登りだった。自分は、バイルとアイゼン両方の効きが信用できず、腕と脚が必要以上に力んでしまっていたように思う。特に、ふくらはぎが疲れてしまい、ピッチの最後の方ではまともに蹴り込むことができなくなり、氷から足が外れてしまわないかと、非常に緊張しながら登った。

鬼の目林道に抜けた時点で17時を回っており、氷瀑フェニックスを全員が通過するまでに実に3時間を要した。人数が多い場合、スタカットで登ると非常に長い時間を要してしまう。これをできるだけ短縮できるような技術と心構えが必要だろう。

下の概念図は田上氏が用意された登山計画書から借用させていただいた。利用させて頂いたことを感謝し、御礼を申し上げる。

